

財団法人京都国際文化協会
第34回(2011年度)エッセーコンテスト
《私の見た日本と世界》

遊び心の大切さ

張 博



海外では「遊びが苦手な勤勉」というイメージのある日本人だが、日本へ来て、遊び心・子供心を大切にす国だと思えるようになった。伝統芸能やお祭り、アニメやゲームはもちろんのこと、技術革新も考えてみれば、日本人の遊び心の発露だと思う。

「遊びをせんとや生れけむ 戯れせんとや生れけん
遊ぶ子供の声きけば 我が身さえこそ動がるれ」

これは平安時代に編まれた歌謡集である『梁塵秘抄』の中に記された歌です。直訳すれば以下のようになります。

遊ぶために生まれてきたのだろうか。戯れるために生まれてきたのだろうか。遊んでいる子供の声を聴いていると、感動のために私の体さえも動いてしまう。

この歌は日本人の心底に秘められたある特質が感じられます。それは、すなわち大人になっても消えない遊び心です。遊んでいる子供の声を聴いて、自分の体も自然に動いてしまうような場面を想像するだけでも思わずくすりと笑ってしまいます。自分が感じた日本人のイメージとぴったり一致した納得の笑いです。

確かに海外では日本人と言うと、「遊び」が苦手、「勤勉」というイメージなのですが、よく考えると日本には遊びへのこだわりから生まれた茶道や華道といった伝統芸能もありますし、集団的に花火を打ち上げる花火大会という祭りもありますし、国技まで発展した伝統的なスポーツである相撲もあります。また、現代の日本文化として日本のアニメ文化やゲーム文化は世界で輝きを放っていますし、数多くの独創的な面白いテレビ番組も世界範囲で注目を集めています。日本人は決してつまらない民族ではありません。むしろ、遊びの面白さをとことんまで追求する子供心あふれた民族です。

私の母国は中国です。中国では子供心や遊び心は良く評価されるものではありません。小さい頃から「遊びを止め、勉強しなさい」としつけされてきた人は決して少数派ではありません。そのような言葉は中国人の「遊び＝怠け」という価値観形成に拍車をかけています。大人になれば子供っぽいことをしたらすぐ幼稚や未熟といったレッテルを貼られます。なぜ中国社会では遊び心は許されないのかというと、中国社会は格差の大きい社会で、そのような社会では生き抜くために、激しい競争に勝たなければならないからです。金銭的なストレスに追われて、生きていくのにもうすでに精一杯で、心にはゆとりなんか当然許すわけにはいきません。毎年 1000 万人にも及ぶ受験者が繰り広げた大学の受験合戦からもその実態がうかがえます。私は中国の受験戦争を経験して 2008 年に日本にやってきました。日本では子供心が許される国です。私は日本社会の優しさに感動を覚えました。

私が留学生生活を始めたのは桜が満開した 4 月の東京でした。東京は元気溢れた大都会でした。新宿や渋谷、原宿、秋葉原など、どこに行っても大道芸人さんの姿が見えます。中には仕事を持つ人も持たない人もいますが、夢をあきらめたくない、生まれたままの天真爛漫な自分を失いたくないという気持ちには変わりはありません。彼らが披露した笑い話を聞くとげげら笑ったり、彼らが演奏した楽曲を聞くとその曲に合わせて踊りたくなったり、大道芸人さんの子供心と私の子供心とが共鳴を引き起こし、まさに「我が身さえこそ動がるれ」です。

私が受かった大学は古い都である京都にあるので、7月の中旬に京都の祇園祭を体験することができました。指定区域内の車の通行を禁止し、大勢の人が街に出て遊びます。そのようなことは中国ではまず考えられません。私は人波の中で歩いているとき、「まさか京都市民が全員ここに集まったのか」と面白半分にたこ焼きの屋台をやっているおじさんに聞くと「そう考えてもええ。祭りはとにかく遊ぶのじゃ」と言って私にたこ焼きを勧めました。たこ焼きを手に入れているわたしは「まあ、えっか」とそのおじさんの経営戦略に感心しながら、人波に溶け込んでいきました。遊びの意味を深く考えず、ただ遊びそのものをとことんまで追い求める祇園祭は日本人にとってきつとものすごく居心地のよい空間であるに違いありません。

もちろん、日本人が遊び心を持てるのは生活が豊かになったからだと説明するのは失礼極まりないことです。『梁塵秘抄』に記載されているように、日本人の遊び心は古くから伝承してきた性質です。「万物に神が宿る」という日本人の伝統的な宗教観、自然観のもとで自然を敬い、自然と共存する考え方は今日に至っても衰えを見せません。古代から現代まで日本人の多くは、緑深い森や山、水量豊かな河川など、自然の恵みのなかで生きてきました。

日本人は自然を敬いながら、愛しています。日本人は幼い頃、自然に親しみ、植物や動物に宿る神々と遊んでいました。大人になっても自然もまた前と変わりなく同じ翡翠の色を放っています。日本人にとっての自然はまさに母なる存在であり、日本人は自然に守られる安心感につつまれることにより、純真な子供心を一生保つことができたのかもしれない。日本人はそういった性質を生かし、多くの分野で花を咲かせています。

欧米諸国では軍事分野の技術革新が民間に波及することが多いです。それと違って、日本では民生分野での技術革新がリードするのが主流です。それは外国人の「大人」にとって「どうでもいい」ようなことでも、子供心が宿っている日本人は強くこだわり、執着した結果ではありません。時々「職人気質」とも呼ばれるその性質から形成した価値観は今世界にも通用するものとなりつつあります。

現在日本が世界にも誇るアニメ産業やゲーム産業の成功は日本人の遊び心の重みを端的に反映しています。『千と千尋の神隠し』の監督として知られている宮崎駿さんは日本のアニメ界の代表的な人物です。彼は心に響くような純真さに満ちたアニメ作品を数多く創作しています。彼の作品を観るといつも作品の美しさと無垢さに感動し、涙が溢れそうになります。彼は自分のスタジオの隣に「3匹の熊の家」という保育園を設立し、毎日子どもの無邪気な笑い声を聞きながら、作品を創作しています。

『マリオ』シリーズを作ったテレビゲームの父とされる宮本茂さんもまた遊び心いっぱいな人物でした。幼少時代から好奇心旺盛で家の周りの自然を探検することが大好きでした。今でも体感型ゲーム機や裸眼 3D ゲーム機など斬新かつ奇想天外なアイデアで続々と世界的なヒット商品を出しています。

鉄道模型好きな日本人のこだわりにより、日本の電車は世界で最も正確な鉄道運行を誇っています。また、『鉄腕アトム』を読んで育ってきた世代は今世界に先立つ最先端なロボット技術を開発させています。研究を功利への追求ではなく、知的遊びだと考えている大学の教授たちは世界各地の学会で脚光を浴びています。遊び心を大切にする日本人の精神は世界にも認められています。

今、日本は未曾有の災難に見舞われていますが、被災地で撮られたある写真が私の印象に強く残りました。「PSP とモンスターハンター(携帯型ゲーム機とゲームソフト)がほしいです。じいちゃんとはあちゃんがなくなったのでそれなりにがんばりたいです」と書いてある看板を天真爛漫な笑顔で持っている女の子でした。

遊びたい気持ちは決して怠けなんんかではありません。それは自然を愛し、他人を愛し、一緒に仲良く前向きにやっといこうという気持ちです。東日本大震災の瓦礫のなかで彼女は素敵な笑顔を見せてくれました。遊びにより心底から生まれる喜びは日本人を元気づけて心を強くしてくれるでしょう。そんな日本人なら、きっと笑顔をもって日本を以前のような素敵な国に復興できると私は信じています。